

# 令和2年度病虫害発生予察情報 特殊報 第1号

令和2年8月18日  
岩手県病虫害防除所

## ネギハモグリバエ別系統の発生について

### 1. 発生状況

- (1) 令和2年6月頃から、花巻市の露地栽培のネギにおいて、従来から発生しているネギハモグリバエ（以下、A系統）とは様相の異なる食害が確認された（図1）。
- (2) この被害株から採集したネギハモグリバエ成虫について、国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構 野菜花き研究部門に同定を依頼したところ、遺伝子解析によりA系統とは異なる別系統（以下、B系統）であることが判明した。
- (3) 岩手県でのB系統の発生確認は初めてである。なお、B系統は、平成28年に京都府で初確認されて以降、これまで17都府県で発生が確認されているが、東北地方では初めての確認となる。

### 2. 形態および生態

- (1) A系統とB系統は、成虫、幼虫共に形態的な差異が認められないため、外観による両系統の識別は困難である。
- (2) 成虫の体長は2～3mmで、胸部と腹部は黒く、その他の部分は淡黄色である（図2左）。幼虫はウジ虫状で、成長すると体長約4mmに達する（図2右）。蛹は体長約3mmで、褐色の俵状である。
- (3) 両系統とも成虫は葉の組織内に産卵し、孵化した幼虫は葉の内部に潜り込んで葉肉を食害する。幼虫は成長すると葉から脱出し、地表または土中で蛹となる。



図1 B系統による食害の様子



【参考】A系統による食害の様子  
（「いわての農作物病虫害図鑑」より抜粋）



図2 ネギハモグリバエ (左：成虫、右：幼虫)

### 3. 被害

- (1) B系統はA系統と比較して、1葉あたり多数の幼虫が集中的に加害する傾向がある。
- (2) B系統による初期の食害は、A系統と同様、不規則な白線状であるが、後に近接した複数の食害痕が癒合し、葉が白化する(図1)。

### 4. 防除対策

- (1) 本虫の発生が認められた場合、系統にかかわらず、ネギハモグリバエまたはハモグリバエ類に適用のある薬剤により、発生初期の防除を徹底する。
- (2) 被害葉や収穫残渣は圃場内に放置せず、まとめて積み上げ、ビニールで被覆・密封するなど、太陽熱を利用して殺虫する。

## ☆農薬危害防止運動実施中(6/1～8/31)☆

### 【利用上の注意】

- ・農薬は、使用前に必ずラベルを確認し、使用者が責任を持って使用しましょう。
- ・農薬使用の際には、(1)使用基準の遵守(2)飛散防止(3)防除実績の記帳 を徹底しましょう。

【情報のお問い合わせは病害虫防除所まで】 TEL 0197(68)4427 FAX 0197(68)4316

☆病害虫防除に関する情報は、いわてアグリベンチャーネット

<https://i-agri.net/Index/gate003> からご覧いただけます。